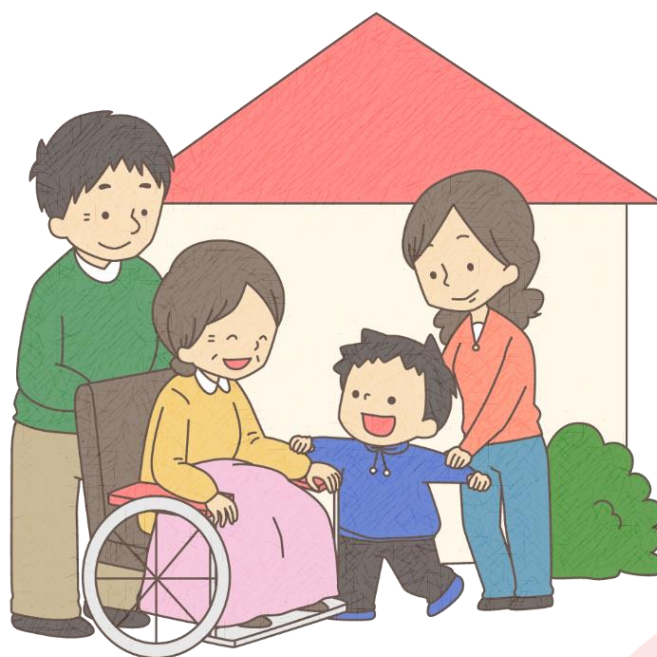


こぶしネット

ご存知ですか？

～東淀川区の在宅医療連携を考える会「こぶしネット」～

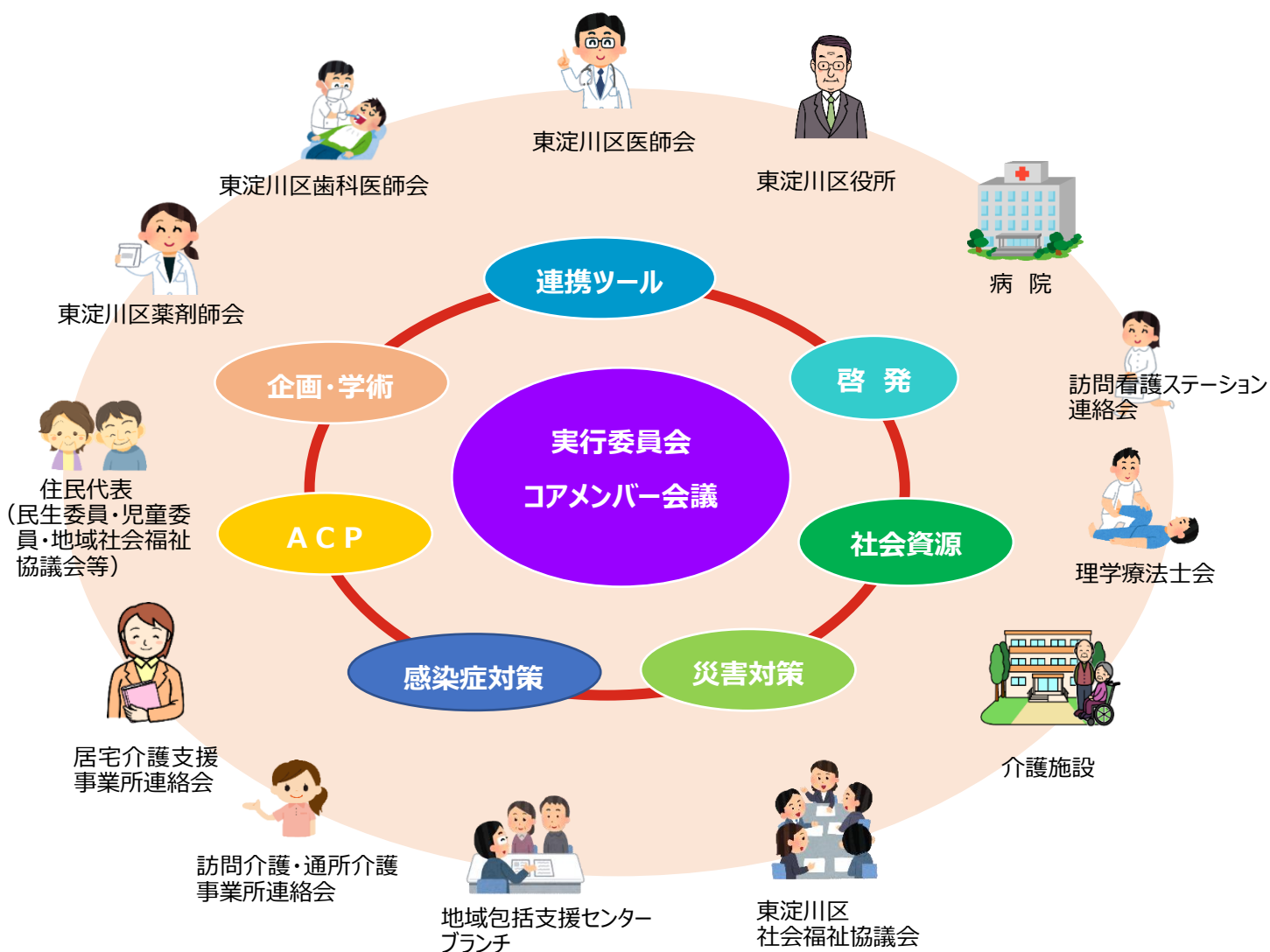


東淀川区の高齢者や障がい者の在宅生活を支えるために、地域での在宅医療を通じて医療・介護・福祉・行政の連携のあり方を考え、東淀川区の特性を生かした地域包括ケアの推進を目的とする会です。

～在宅医療・介護連携を推進する会に ぜひご参加下さい～

こぶしネットとは、東淀川区の高齢者や障がい者の在宅生活を支えるために、地域での在宅医療を通じて医療・介護・福祉・行政の連携のありかたを考え、東淀川区の特性を生かした地域包括ケアの推進を目的とする会です。

具体的な活動として実行委員会を月1回開催し(1)企画・学術(2)啓発(3)社会資源(4)連携ツール(5)災害対策(6)ACP(7)感染症対策の7つのワーキンググループで課題を抽出しその解決を図っています。多職種の研修会を年に4回、地域への啓発のための学習会の開催、連携ツールの作成(心不全・フレイル予防)、在宅医療啓発のためのリーフレットの作成、社会資源マップの作成やホームページの作成などを行っています。また災害時に多職種がどう関わることができるのかをテーマに検討を行っています。



※実行委員会の後、各団体の代表(コアメンバー)会議が開催される。

こぶしネット実行委員会



開催日時：毎月第4木曜日
14時～15時

開催場所：東淀川区民ホール
または Zoom



中谷 広美

こぶしネット 顧問
東淀川区長

「こぶしネット」は区民の皆さんが、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるように、医療・介護・福祉等幅広い分野の専門職と行政が連携し、東淀川区の在宅医療や介護をより良いものにしようとするネットワークです。在宅生活を支援する専門職の「顔の見える連携」や知識・技術の向上、医療・介護の課題の解決をめざし、活動しています。

行政としても、「住み慣れた地域で最後まで暮らす」ことができるように、在宅医療や在宅介護について、「こぶしネット」とともに考え、「住んでよかった、住み続けたい東淀川区」の実現に向けて取り組みます。



辻 正純

こぶしネット 顧問
東淀川区医師会 会長

「こぶしネット」は東淀川区の医療・介護・福祉・行政のネットワークを構築し、スムーズな多職種連携を目指すべく、2013年に誕生しました。地域の高齢者や障がい者が少しでも長く住み慣れた地域で暮らすためには私たち医療・介護・福祉・行政がしっかり「顔の見える連携」をとり、利用者ひとりひとりの医療・介護情報を共有しなければなりません。また医療介護現場で見えてくる地域の課題を行政に届けることも必要です。

東淀川区でより良い医療や介護サービスを提供するために、それぞれの職種が積極的に他の職種と情報や意見を交換したり、自身をスキルアップさせることは欠かせません。ぜひ「こぶしネット」に参加し、東淀川区の街づくりに貢献して頂きたいと願っております。



こぶしネット実行委員会 各グループの紹介

こぶしネット実行委員会は、月1回開催し(1)企画・学術(2)啓発(3)社会資源(4)連携ツール(5)災害対策(6)ACP(7)感染症対策の7つのワーキンググループで課題を抽出しその解決を図っています。各グループの実際の活動状況をご紹介します。

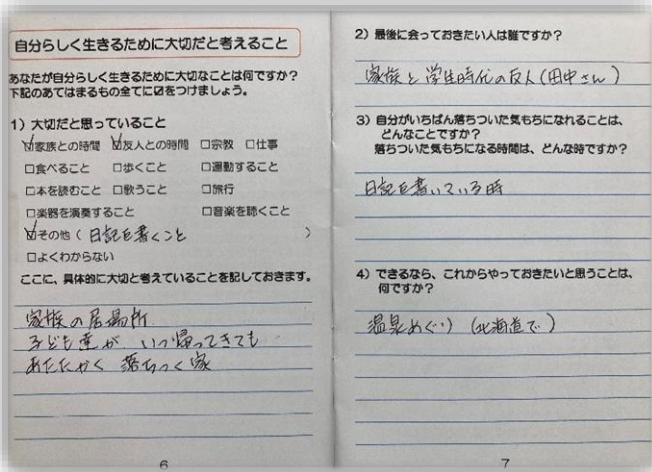
●ACPグループの活動

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)は「人生会議」とも言われ、「もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合いを共有する取組」です。

東淀川区では独自の「オレンジノート」を作成し、なにわ元気塾など東淀川区の16カ所以上の高齢者の集まりや区役所での市民公開講座において、こぶしネットのメンバーによる人生会議とオレンジノートについて

の勉強会を開催してきました。

今年度も引き続き、東淀川区民すべてが、自分の価値観や人生観を大切にしながら、過ごしたい場所で医療やケアを受けられるシステムづくりを目指していきたくと思います。



オレンジノート作成風景(令和4年度なにわ元気塾)
16カ所で開催(合計163人が参加)



●感染症対策グループの活動

2020年の1月に始まった日本におけるコロナ禍の影響で、多職種間での顔の見える連携作りを目標とした「こぶしネット」も、当時は活動の自粛を余儀なくされていました。せまりくる医療崩壊・介護崩壊は、在宅医療の崩壊にもつながりかねない大きな問題でした。

そのような中、在宅医療に関わるチームの連携を守り、医療・看護職・薬剤師だけでなく、ヘルパー・ケアマネジャーなどの介護職も含めた多職種の全てが取り残されることなく感染症対策のための情報や知識を共有できるようにと、「こぶしネット」は感染症対策グループを立ち上げました。

〈主な活動内容〉

介護現場での感染対策と自作
できる感染防護具 Web 研修会
(令和2年4月25日・2020年12月26日)



新聞作成 (令和3年1月20日)
〈新聞へのリンクは以下の通り〉
<https://kobushinet.jp/pdf/silver3.pdf>



在宅看取り研修会
(令和3年2月6日)

淀川区・東淀川区・旭区合同web研修会
コロナ禍における
在宅看取りを考える



こぶしネット
感染症対策グループ

コロナ検査実習・勉強会



令和5年3月までに計12回開催、計84名の医療・介護関係者が参加されました。

これらの活動を通して多職種間の連携が良くなり、感染症の蔓延する中においても在宅医療の必要な方々に対して質の高い医療・介護サービスの提供が維持できるようにと頑張っております。

●災害対策グループの活動

災害対策グループは、平成27年4月に5つめのグループとして誕生しました。活動としては、災害発生時における要援護者をどのように支援するのか、安否確認、医療や介護の提供など、医療・介護・福祉・行政等の日頃の連携が活かせるよう平時から必要な活動を企画しています。

こぶしネットの各団体では、各々で災害時対応が検討・策定されていますが「それらを活かした形で、こぶしネット全体の災害時対応をどう考えるのか」が今後の課題となっています。また、パソコンやスマートフォンなどが使用できない高齢者へ向けた情報発信なども課題となっており検討を進めています。

〈主な活動内容〉

- ・災害発生時の医療介護福祉関係者の行動検討
- ・区内の防災訓練への参加
平成28年10月16日大隅西地区
平成28年10月23日豊新地区
- ・緊急時のこぶしネット連絡方法検討
- ・平成30年大阪府北部地震、台風21号の対応の検証
- ・行政（大阪市、東淀川区）の防災施策の学習
- ・区役所公式LINE、大阪市防災アプリの周知・登録呼びかけ
- ・BCP（事業継続計画）研修会企画・開催

東淀川区役所のBCP策定支援



第41回 東淀川区の在宅医療連携を考える会

災害時にもサービスが継続できますか ～BCP(事業継続計画) について学びましょう～

BCP(事業継続計画)とは・・・
企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

日時 2021年8月7日(土) 14時～16時(ZOOM開催)

プログラム

- 14:05～ 講演 関西大学 社会安全学部 准教授 城下 英行 先生
- 15:15～ 活動紹介 こぶしネット災害グループ 吉岡 幸洋 氏
- 15:45～ 区役所からの情報提供 こぶしネット災害グループ 島田 健志 氏

【お申し込み方法】 締め切り8月4日まで
お名前・連絡先・参加者氏名を「お申し込み」メールアドレスをご記入の上で、
FAX(06-6326-8484)でお申し込みください。後日、Zoom参加のURLを返信いたします。

問い合わせ先: こぶしネット事務局 TEL:06-6320-2226

●企画・学術グループの活動

企画・学術グループは、こぶしネット主催の「東淀川区在宅医療連携を考える会（通称：考える会）」を企画・運営しているグループです。

「考える会」は、こぶしネットの活動目的の一つ「医療・介護・福祉・行政の従事者同士の顔の見える連携強化」を具現化する会として、発足以来、研修会の開催は47回に及んでいます。テーマは、「地域で暮らす高齢者への支援」「災害対策」「サルコペニア・フレイルに関する多職種連携アプローチ」「ACP」など、多岐にわたっています。いずれも多職種連携・チームアプローチ・相互理解がキーワードになっています。

コロナ禍以前は、毎年4回の研修会を開催していました。コロナ禍においても、中止の時期も挟みながら、オンライン開催も行い、従事者間の連携を図っていました。企画・学術グループでは、地域の従事者の相互理解・共通認識を推進し、個々のスキルアップになる内容にするべく、普段はそれぞれの職場で業務しながら、合間をぬって考える会の企画や準備を行っています。

今後も、こぶしネットメンバーのみならず、区民、地域で活動する方々の意見を取り入れつつ、マンネリ化せず、参加しない人にも関心を持ってもらえるような企画にするとともに、課題に継続性を持たせ発信していきたいと思えます。研修会が、「考えて実践につながる」ような「考える会」になるよう、取りくんでいきます。

〈主な活動内容〉

令和3年度

日程	テーマ	参加
5月8日	フレイル予防に取組もう！ ・オーラルフレイルとその予防 ・身体活動とフレイル予防	40名
8月7日	災害時にもサービスが継続できますか？ ～BCP(事業継続計画)について学びましょう～	75名
11月13日	災害時にもサービスを継続できますかPART2 ～これならできる！BCPを作ってみよう！～	49名
2月5日	コロナで延期	

令和4年度

日程	テーマ	参加
5月14日	ACPに取組んでみませんか	40名
7月23日	情報が届かない人に情報を届けるために、自分たちは何ができるか ・新型コロナワクチンの接種状況から見える南西部圏域の 社会的孤立の実相～ヒアリング調査結果報告～	52名
12月24日	入退院を繰返す心不全患者の連携を考える ～地域で暮らし続けるために～	35名

令和5年度

日程	テーマ	参加
5月13日	支援拒否のケースへの関わりについて考える ・事例検討	54名
11月11日	慢性腎不全について ・腎不全の病態と治療～CKD診療ガイドラインの概要と 期腎不全治療の現状～ ・腎不全とその食事のあり方について～ご飯と上手にお付き合い～	49名
2月3日	事例検討「在宅取りについて考える」でのグループディスカッション ・独居事例 ・家族認知症事例 ・特別養護老人ホーム事例	40名



●啓発グループの活動

啓発グループは、高齢者や障がい者など地域で生活する方々が、住み慣れた家や地域で安心して安全に暮らしていくための啓発活動をしています。

平成25年から小学校区域の方を対象に地域学習会を開催しています。講師は啓発グループのメンバーが担当し、在宅医療・介護についてお話をこれまでに11回開催しました。その他にも年に1回東淀川区民ホールで市民公開講座を開催しています。内容としては、在宅医療や介護のを中心に、ACPグループと協力して人生会議（ACP:アドバンス・ケア・プランニング）オレンジノートの啓発を行いました。最近では、区役所1階のデジタルサイネージを活用した「ご存知ですか？在宅医療～あなたの家に帰ろう～」の普及啓発活動を行っています。

今後の活動として、地域学習会の未実施地域に対する実施、デジタルサイネージの放映内容をブラッシュアップ、市民公開講座の継続、その他動画やあらたなデジタルの活用も検討し取り組んでいきます。

〈主な活動内容〉

地域学習会の実施

- 地域：西淡路地域
- 日時：令和5年11月27日（月）午前10時30分から午前12時
- 場所：西淡路会館 淡路3-13-10
- 内容：「ご存知ですか？在宅医療・介護」
 - ・自宅での医療（医師や看護師の訪問目的）
 - ・自宅での歯の治療・管理（訪問歯科診療、口腔ケアなど）
 - ・自宅での薬の受け取り（訪問薬剤師の役割）
 - ・自宅でのリハビリテーション（訪問リハビリ、理学・作業療法士の役割など）
 - ・介護保険で利用できるサービスの紹介
 - ・在宅医療・介護に関する相談窓口の紹介
- 講師：啓発グループメンバー



市民公開講座の実施

- 日時：令和6年1月20日（土）午後2時から午後4時
- 場所：東淀川区民ホール
- 【内容】
 - ・在宅医療・介護に関する職種紹介（「中村さんの人生会議」の寸劇）
 - ・「もしもの時のために 人生会議」
 - ・「自分の思いを伝えるオレンジノートの紹介」
- 講師：淀川キリスト教病院 緩和医療内科 主任部長 池永 昌之 先生



1 デジタルサイネージを活用した普及啓発

★設置場所

- ①区役所1階 正面玄関入ってすぐ左
- ②区役所1階 窓口サービス課 待合スペース
- ③イオンスタイル東淀川 2階

★放映内容

ご存知ですか？在宅医療～あなたの家に帰ろう～

- ・各専門職の役割を紹介した内容で、スライドショー形式で繰り返し再生（約10ページ）



区役所 デジタルサイネージ



イオン デジタルサイネージ

●社会資源グループの活動

社会資源グループは、東淀川区民が在宅で安心・安全に暮らしていけるよう、区内の医療・介護・福祉・行政等の情報をわかりやすく、簡単に入手・発信できることを目的に活動しています。

活動内容としては、その時々で必要とされる社会資源の発信に取り組んできました。当初はこぶしネット公式ホームページの内容の検討、コロナ禍にはMCS(※)を活用してアンケートを実施し「コロナ禍で困っていること」の情報共有に取り組みました。また、『地域の社会資源の発掘』を目的に区内のUR住宅で住民とグループメンバーによる交流を図りました。この活動から「百歳体操」が立ち上がり、現在も地域コミュニティの場となっています。

現在、こぶしネットの実行委員会の活動をまとめ、区内の専門職に発信することを目的に『こぶしネットをご存じですか?』の編集に取り組んでいます。

今後も、幅広く区民の方やこぶしネット内外の専門職に求められるようなテーマで社会資源情報の発信や共有に取り組んでいきます。

※MCS：メディカル・ケア・ステーションの略

医療介護専用コミュニケーションツール

〈主な活動内容〉

「こぶしネット」HP 掲載内容の検討 平成 26 年



「東淀川区お役立ち地域情報」にて特集ページを掲載 令和元年



MCS (※) を利用したコロナ禍の情報共有 令和 2 年度

1. コロナ禍において各団体・事業所等が困っていること

包括

- ①ケア会議や家族会など、人が集まることについての活動方法
- ②訪問時の感染対策
- ③包括内でクラスター発生時の対処方法

理学療法士会

- ①会議や講習会の実施方法について現在も難法している。
- ②講習会など技術指導などの講師または参加者同士が接触する内容での実施は対応が難しい状況。

薬局・薬剤師会

- ①患者さん同士の距離を保つことが難しい場合ある。コロナ疑いの患者さん末局時の対応に苦慮。
- ②薬剤師会では研修会が開けず薬剤師が習得する各種認定が取れない・更新できない状況。

淀川キリスト教病院地域医療連携センター

- ①退院前カンファレンスが対面できない。病棟カンファレンスも縮小しているため、退院調整が十分に行きませんが、在宅につなげていること。
- ②面会禁止のため、家族の状況や介護能力の把握、介護指導が難しい。

訪問看護ステーション

- ①認知症の利用者への感染予防対策が大変。

プランチ

- ①サ高住等が通所介護事業所を利用している方の行動制限を行っている。通所介護サービスを受ける必要性のある利用者の利用継続を訴えても、入居施設判断で一律に行動制限(外出禁止)され訴えを聞き入れてもらえなかった。



〈さいごに〉



こぶしネットが東淀川区で生まれてから令和6年の春で11年経ちました。コロナ禍の一時期を除いて、医療・介護・福祉・行政などの多くの専門職が集まり、地域包括ケアシステムの構築に向けた毎月の協議を10年以上続けることができたのも、地域をよくしたいという思いではないかと思えます。一人では、一つの職種ではできないことでも、地域の様々な職種の人たちが集まることによって、ここに記載されているようないろいろな取り組みを行い、みんなで成果を上げることができました。

医療・介護・福祉に従事する方々は、今後2040年に向けてこれからさまざまな課題に直面することになります。今されている仕事に加えて、これからのことを少しでもよくしたい、地域のことにもわずかでも関わりたいと思っておられる方はぜひこぶしネットにご参加・ご協力くださいますようお願いいたします。

こぶしネット 代表
東淀川区医師会 副会長 岡部登志男



東淀川区内の医療・福祉等事業者の皆さま

「こぶしネット」に参加しませんか？

メンバー募集中！



東淀川区内で医療・介護・福祉・行政に携わる者の会です。グループごとの目的に向けた活動だけでなく、情報共有や連携の場でもあります。ぜひ、メンバーになりませんか？

ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください、お待ちしております！

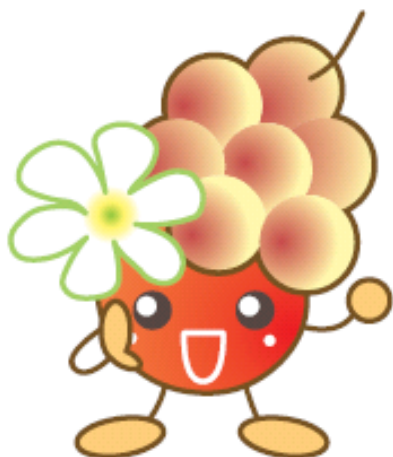
こぶしネット事務局 東淀川区医師会
TEL:06-6320-2226
HP:<http://kobushinet.jp/>



〈編集後記〉

こぶしネット実行委員会の活動を、多くの医療・介護・福祉・行政の方々に知っていただき、共に活動してくれる仲間を増やすことを目的にパンフレットを作成しました。各グループから活動内容記事を提供してもらい、約2年かけて完成しました。ご協力いただいた皆様に感謝しております。想定していたより時間は要しましたが、作り上げた達成感を感じており、また作成を通してメンバーの絆も深まったように思います。これからも社会資源情報について共有・発信できるよう活動していきたいと思えます。

社会資源グループ一同



東淀川区キャラクター
「こぶしの みのりちゃん」

「こぶしネット ご存知ですか？」

発行 こぶしネット実行委員会

令和6年 7月

改定 令和8年 4月